

令和6年度 学校評価（自己評価）

<p><b>【教育目標】</b> 地域を代表する学校として、「地域を愛し、地域に根つき、地域へ貢献できる」生徒を育成する。</p> <p><b>【スクール・ミッション】</b> 校訓「志学」の理念のもと、公共の精神や人権尊重の精神、豊かな人間性を備え、地域を愛し、地域に根つき、地域へ貢献できる人材を育成する。</p>	<p>育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 礼儀・マナーなどの社会性を身につけ、自立（自律）した生徒を育成する。</li> <li>② 地域の課題を自ら発見し、仲間と協働して地域の課題解決に取り組むことのできる生徒を育成する。</li> <li>③ 自己を認め、他者を認め、多様な価値観を尊重できる生徒を育成する。</li> <li>④ 基礎学力を身につけるとともに、自らの進路実現に向けて努力できる生徒を育成する。</li> <li>⑤ 社会の状況を的確に把握して対応できる適応力と先を見通す力を備えた生徒を育成する。</li> </ol> <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の興味関心や、多様な進路に応じた選択科目を設定する。</li> <li>② 特色ある学校行事や地域人材を活用した授業をとおして地域と連携した学びを展開する。</li> <li>③ 教育相談や通級による指導を充実させ、多様な生徒に対応した適切な教育的支援を行う。</li> <li>④ 少人数授業、チームティーチング、サポーター制を実施し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。</li> <li>⑤ ICTを活用した授業を充実し、情報活用能力の育成と情報モラルの指導を徹底する。</li> </ol>
---	---

1・・・できていない 2・・・あまりできていない 3・・・だいたいできている 4・・・できている

領域	評価の観点	NO	評価項目	実践目標	具体的方策	平均
学校運営	学校運営全般	1	教育目標等の達成	教育目標の達成に向けて各教職員・各部・学年が意欲的に取り組む。	・教育目標、スクール・ミッションおよびスクール・ポリシーを教職員が共通理解し、分掌間の連携を図りつつ、組織的な学校運営に取り組む。	3.21
		2	勤務時間の適正化	定時退勤日を設定し、意識的な働き方改革の実施を目指す。 教職員の職務に対する意識改革を行いつつ、学校業務の改善に積極的に取り組む。	・水曜日の定時退勤を推進するとともに、月1回の完全退勤（17:00施設）を実施する。 ・毎週水曜日のノー部活デーを継続する。 ・退勤時刻の記録による、超過勤務時間の見える化により、業務の偏りを把握することで改善につなげる。	3.27
	開かれた学校づくり	3	家庭や地域への情報発信	学校のホームページや各種の通信等マスメディアを活用して、学校のさまざまな情報を公表する。	・学校ホームページは、ユニバーサルデザインに配慮し、必要な情報を迅速に提供する。 ・地元ケーブルテレビ、新聞、報道機関を積極的に活用する。 ・FaceBook、学校だより、年次通信の定期的な発行を通して学校の情報を提供する。	3.30
		4	学校評議員制度等を利用した学校運営の推進	学校評議員会を充実させ、学校運営に反映させる。	・十分な資料を準備し、学校評価も含めた学校運営全般について意見を求め、学校運営に反映させる。 ・公開授業や学校行事の案内を行い、積極的な参加を促し学校への理解を深める機会とする。	3.36
	生徒指導	5	生徒の内面的理解に努める工夫	全校生面談や居場所づくりなど心のサポートシステムの取組を充実させ、問題行動等の未然防止策の工夫を行う。	・全校生面談など生徒に接する機会を増やし、生徒の内面理解を行う。 ・保健部と定期的に協議・情報交換を行い、講演会の実施や日頃の指導方法について共通理解を図る。 ・LHRが生徒の内面理解の場となるよう計画的に運営する。	3.33
		6	生徒の自主・自立を育む指導の工夫	生徒の自主性や主体性が図られるように、生徒会活動を活性化させる。	・生徒会行事を生徒会執行部を中心に、自主的・主体的な活動として生徒会活動を機能させる。 ・学校行事等に生徒が前面に出て活動ができるようにサポートする。 ・生徒大会とは別にリーダーミーティングを実施し学校運営に参画する機会や態度を育てる。	3.09
		7	部活動を活性化させる。	部活動を活性化させる。	・部活動紹介、勧誘活動、体験入部など入部率が上がるようさまざまな活動を実施する。 ・指導内容の充実と積極的な部活動の運営を図る。 ・学校祭、球技大会などの学校行事における活動の機会を設ける。	2.97
	進路指導	8	進路指導体制の充実	年次と連携し、3年間を見通して計画的・組織的な進路指導を推進する。	・進路指導部を中心に進路計画を立案し、定期的な模試情報の情報交換を行い、各年次と連携して、組織的な指導計画を設定する。	3.36
		9	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	職業観・勤労観を育成するキャリア教育を充実させる。	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHRを中心にキャリア教育に取り組む。 ・各種ガイダンス、講演会等を実施する。	3.09
		10	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	職業観・勤労観を育成するキャリア教育を充実させる。	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHRを中心にキャリア教育に取り組む。 ・各種ガイダンス、講演会等を実施する。	3.61
教職員の資質向上	11	実践的指導力の向上	公開授業週間やユニット講座を活用し、授業見学など行うことにより相互の指導力向上を図る。	・ユニット講座（研修）を実施し、教科指導力を向上させる。 ・アンケート等について、教科会で分析を行い、研究結果を共有する。	3.27	
	12	計画性を持った研修の実施	学校の諸課題について計画的に研修を企画・実施する。	・計画的に各部による研修を実施し、実践的指導力を向上させる。	3.27	
危機管理体制の整備	13	実効ある危機管理マニュアルの策定	各種危機管理マニュアルを作成し、教職員に周知徹底を図るとともに、学校防災・防犯体制の充実に取り組む。	・危機管理対応マニュアルを職員会議・研修会等で教職員に周知徹底を図る。 ・防災や防犯に関する情報を生徒・保護者に周知し、危機回避に努める。	3.33	
	14	生徒に対する防犯教育の徹底	安全教育の全体計画に基づき、危機的事態への適切なスキルを身につけさせる。	・安全教育に関する講演会等を実施するとともに、全校集会での講話や日ごろの指導をとおして、危機に対する意識を高める。 ・ネットトラブルから身を守る方法など、状況に応じた講話を企画する。	3.27	
教育課程	自ら学び考える力の育成	15	体験的・問題解決的な学習の展開	体験的な学習をとおして自ら学び考える力を育成する。	・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」等で、主体的に学ぶ力を身につけさせる。 ・企業見学や就業体験等、より生徒のニーズに合った体験的な活動を工夫する。	3.36
		16	生涯学習の視点に立った実践能力の育成	在り方生き方を考えさせ、興味・関心・進路などに応じて意欲的な科目選択ができるように指導する。	・自分を見つめ、「自己の在り方・生き方」を考えさせる指導を行う。 ・各自の興味・関心・進路希望に応じた科目選択ができるように指導する。 ・担任・教科によるキャリアカウンセリングの体制をつくる。	3.12
		17	教職員の協働体制の確立	総合的な探究の時間の位置づけや内容について共通理解を図る。	・「自己の在り方・生き方」を考えさせ、希望進路を具体化し、自己実現ができるように指導する。 ・2、3年次「総探」において、答えのない問いを自ら立て、答えを創造し解決しようとする姿勢をもった生徒を育成する。 ・2、3年次「総探」において、キャリア教育の視点から指導の継続性を研究する。	3.12
基礎・基本の定着	18	生徒の学力の把握と個に応じた学習指導の工夫	観点別評価の徹底を図り、学期ごとに評価のフィードバックを行い、生徒に応じたきめ細かい指導に努める。	・少人数制授業の実施や、通級などを活用し、個の生徒に合った指導に努める。 ・情報共有を行い、きめ細かい指導に努める。	3.52	
	19	学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	興味・関心を持って学ぶことができ、わかる授業を展開する。	・生徒による授業評価を行い、授業改善に努め、分かる授業を実現する。	3.24	
	20	学習習慣確立の指導	生徒の家庭学習習慣確立のための指導を行う。	・計画的な家庭学習の指導と、教科・年次等による学習課題の指示や小テストの実施によって家庭学習の習慣を図る。 ・考査後の振り返りを行い、継続的な学習習慣の確立の仕組みづくりを行う。	2.97	
課題教育	防災・安全教育	21	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	救急・災害時における生徒の安全確保の意識と技術の向上を図る。	・救命救急講習会を実施し、生徒の安全確保に努める。 ・防災訓練で生徒の避難誘導と安全確保に関する教職員の意識と技術向上に努める。	3.45
		22	実践的な安全教育への取組	通学路の安全確保と安全指導の徹底を図る。	・通学路での立ち番指導を行い、自転車の二人乗りや傘さし運転の禁止等交通規則の遵守を指導する。	3.30
	23	人権道徳教育推進体制の確立	人権道徳教育の推進体制を確立し、その充実を図る。	・3年間を見通した全体計画に基づき、年次ごとの適切な年間指導計画を作成し、計画的に実施する。ホームルームを核に、あらゆる機会をとおして、人権を相互に尊重し人としての生き方・あり方を考えさせる。	3.12	
	体験活動	24	高校生就業体験事業	高校生就業体験事業を行う。	・生徒が進路開拓上役立つ職場で就職希望者を対象に就業体験（2年次対象）を実施する。準備段階から保護者・企業等との緊密な連携を図り、より意味のある就業体験になるように努力する。	3.52
		25	高校生ふるさと貢献・活性化事業	ふるさと貢献・活性化活動の充実を図る。	・地域行事への参加をとおして、地域の人々との交流や近隣校との交流を行う。 ・ボランティア活動に参加し、こども園・福祉施設との交流や清掃美化活動等に取り組む。 ・地域人材や地域の特産物を活用したビジネスプランや商品開発に力を入れ、ふるさと意識の醸成や地域活性化に取り組む。	3.42
特別支援教育	26	通級による指導のための校内体制の整備	校内体制の整備を進める。	・通級による指導を実施するための校内体制を整備する。 ・個別的教育支援計画、個別の指導計画の様式、作成手順を確立する。	3.64	

## 令和6年度学校アンケート（生徒）

番号	評価項目	全く思わない	あまり思わない	そう思う	とてもそう思う
1	和田山高校は、地域と協働し、地域に必要とされる高校づくりを推進し、魅力ある高校になりつつある。	2.9%	15.1%	64.4%	17.6%
2	和田山高校は「確かな基礎学力・技能を持ち、自主的に行動できる生徒」を育てている。	4.9%	23.9%	55.6%	15.6%
3	「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」やICT機器を活用した授業は、和田山高校の特色づくりにつながっている。	2.4%	10.2%	54.6%	32.7%
4	和田山高校は、学校の教育活動や生徒の様子を家庭へ発信している。（和高ニュース・年次、クラス通信・ホームページ・Facebook・Instagram）	2.4%	13.7%	61.0%	22.9%
5	施設設備等の教育環境は、学校生活を過ごす上で充実している。	6.8%	24.4%	50.7%	18.0%
6	和田山高校は、多くの講座（選択科目）を設け、多様な生徒への対応を行っている。	1.5%	5.9%	57.6%	35.1%
7	和田山高校は、「生徒が理解し、できるようになる授業」を工夫して実施している。	2.9%	13.7%	65.9%	17.6%
8	和田山高校の生徒は、提出課題や予習復習など、家庭学習に取り組んでいる。	7.8%	39.0%	40.0%	13.2%
9	和田山高校は、授業、補習、検定取得、模試などを効果的に実施し、基礎学力を向上させている。	2.9%	8.8%	66.8%	21.5%
10	和田山高校は、生徒の将来を見通して、適切で計画的な進路指導を実施している。	2.9%	11.2%	64.9%	21.0%
11	和田山高校の保護者と生徒は、生徒の進路や生活態度などについて、家庭で有意義な話し合いをしている。	4.9%	20.0%	60.5%	14.6%
12	和田山高校は、生徒の規範意識の育成に向けて、適切な生徒指導を行っている。	4.4%	15.1%	60.0%	20.5%
13	和田山高校は、生徒の内面を理解しつつ、学校生活・学習活動の中で対話を重視した指導をしている。	6.3%	11.7%	63.4%	18.5%
14	和田山高校では、生徒、保護者と教職員が信頼関係を築いている。	6.8%	14.6%	56.6%	22.0%
15	和田山高校の学校行事は、生徒の意欲を喚起し、学校を活性化している。	3.9%	11.7%	61.5%	22.9%
16	和田山高校の部活動は、適切に実施されており、生徒の意欲を喚起し技能等を向上させている。	5.4%	14.6%	61.0%	19.0%
17	和田山高校は、緊急時・事故発生時に迅速かつ適切に対応している。	4.4%	10.7%	64.9%	20.0%
18	和田山高校は、保健だよりによる情報の発信、検診の勧めの通知など、適切な保健指導を行っている。	4.4%	6.8%	64.9%	23.9%
19	和田山高校の生徒、保護者、教職員が誇りや愛着を持っている。	5.4%	15.6%	59.5%	19.5%
20	和田山高校に入学して、よかったと思う。	3.9%	8.3%	55.6%	32.2%

## 令和6年度学校アンケート（保護者）

番号	評価項目	全く思わない	あまり思わない	そう思う	とてもそう思う
1	和田山高校は、地域と協働し、地域に必要とされる高校づくりを推進し、魅力ある高校になりつつある。	0.0%	9.6%	75.0%	15.4%
2	和田山高校は「確かな基礎学力・技能を持ち、自主的に行動できる生徒」を育てている。	0.0%	22.1%	69.2%	8.7%
3	「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」やICT機器を活用した授業は、和田山高校の特色づくりにつながっている。	0.0%	13.5%	68.3%	18.3%
4	和田山高校は、学校の教育活動や生徒の様子を家庭へ発信している。（和高ニュース・年次、クラス通信・ホームページ・Facebook・Instagram）	2.9%	14.4%	65.4%	17.3%
5	施設設備等の教育環境は、学校生活を過ごす上で充実している。	6.7%	32.7%	55.8%	4.8%
6	和田山高校は、多くの講座（選択科目）を設け、多様な生徒への対応を行っている。	1.0%	8.7%	63.5%	26.9%
7	和田山高校は、「生徒が理解し、できるようになる授業」を工夫して実施している。	0.0%	26.9%	65.4%	7.7%
8	和田山高校の生徒は、提出課題や予習復習など、家庭学習に取り組んでいる。	12.5%	35.6%	47.1%	4.8%
9	和田山高校は、授業、補習、検定取得、模試などを効果的に実施し、基礎学力を向上させている。	1.9%	16.3%	63.5%	18.3%
10	和田山高校は、生徒の将来を見通して、適切で計画的な進路指導を実施している。	2.9%	18.3%	69.2%	9.6%
11	和田山高校の保護者と生徒は、生徒の進路や生活態度などについて、家庭で有意義な話し合いをしている。	1.0%	36.5%	54.8%	7.7%
12	和田山高校は、生徒の規範意識の育成に向けて、適切な生徒指導を行っている。	1.9%	28.8%	63.5%	5.8%
13	和田山高校は、生徒の内面を理解しつつ、学校生活・学習活動の中で対話を重視した指導をしている。	1.9%	18.3%	74.0%	5.8%
14	和田山高校では、生徒、保護者と教職員が信頼関係を築いている。	5.8%	29.8%	55.8%	8.7%
15	和田山高校の学校行事は、生徒の意欲を喚起し、学校を活性化している。	2.9%	8.7%	75.0%	13.5%
16	和田山高校の部活動は、適切に実施されており、生徒の意欲を喚起し技能等を向上させている。	3.8%	34.6%	55.8%	5.8%
17	和田山高校は、緊急時・事故発生時に迅速かつ適切に対応している。	1.0%	22.1%	71.2%	5.8%
18	和田山高校は、保健だよりによる情報の発信、検診の勧めの通知など、適切な保健指導を行っている。	0.0%	19.2%	76.0%	4.8%
19	和田山高校の生徒、保護者、教職員が誇りや愛着を持っている。	3.8%	23.1%	67.3%	5.8%
20	和田山高校に入学して、よかったと思う。	1.0%	9.6%	59.6%	29.8%

## 令和6年度 学校関係者コメント

定員割れの状況を踏まえて、授業料の無償化の影響で公立離れが進展し、生徒数が私立高校に流れることが懸念される。

高卒の3年以内の離職率が大卒に比べて高い傾向にあり、その理由として高校側からの一方的な推薦によって生徒が就職先を自由に選べないということを知ったことがあるが、本校ではどのような指導が行われているか。

生徒数の減少については、部活動に力を入れることで魅力ある学校をつくることも大切に思う。

学校評価アンケートにおいて、本校に入学してよかったという声が多くあることが素晴らしい。

部活動では、生徒数が少なく単独でチームを組めない部活動もあるので、生徒の部活動の両立というものを考えてもいいのではないか。

部活動では、上下関係といった社会性が身につく一方で、体罰が問題となっているが、そのような問題はないか。

学校が国道沿いで目立つ立地にある分、地域の方々からグラウンドに雑草が多く生えているのが気になるとの声を聞く。いくつかの学校を回るが、一番汚いと言われることもある。マムシなどの害虫の危険もあるので、手入れが必要。